

「特集」みどりしなまの海

大村湾



生活に密接な大村湾

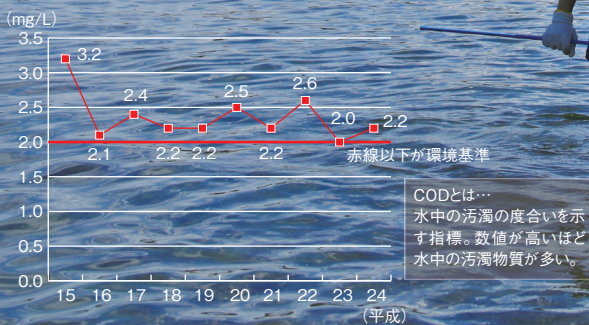
長崎県の中央部に位置し、県内5市4町に広がる「大村湾」。穏やかな波が海岸に打ち寄せることから「琴の湖(ことのおみ)」とも呼ばれています。私たちのふるさとの海として生活に密接に関わり、四季折々の美しい風景を折りなし、恵みと癒しを与えてくれています。

大村湾は、約9千年前に海水が浸入してきたと考えられています。大きさは、南北約26キロ、東西に約11キロ、面積約320平方キロメートル。佐世保湾に通じて、東シナ海へとつながっています。

極めて閉鎖性が強い海域

古くから魚介類を産出する豊かな海として、また、重要な海上交通の場として、大きな恵みをもたらしてきました。しかし、大村湾は極めて閉鎖性の強い海域であるため、外洋との海水の交換がむずかしく、いったん水質が悪化するとその改善には相当地な困難が伴います。

それは今、大村湾が抱えている問題です。魅力あふれるふるさとの海の環境を保全するため、ともに考えてみませんか。



CODとは…
水中の汚濁の度合いを示す指標。数値が高いほど水中の汚濁物質が多い。

大村湾におけるCODの経年変化
(出展:長崎県第3期大村湾環境保全・活性化行動計画)

大村湾の浅瀬で海の生き物を探す子どもたち

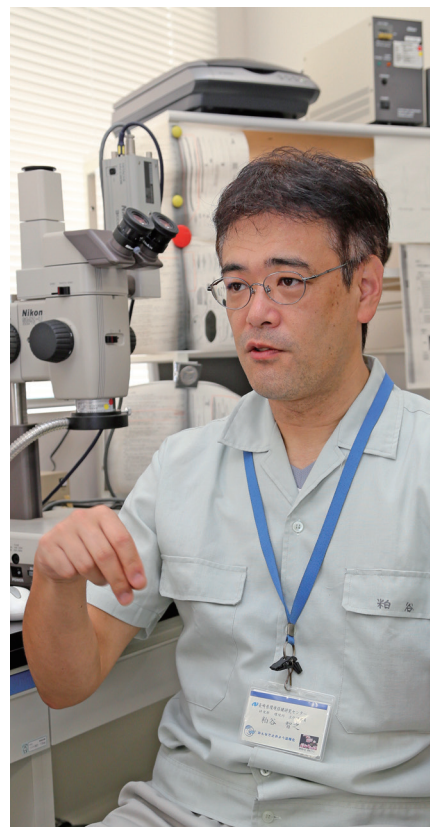
県環境保健研究センター 主任研究員

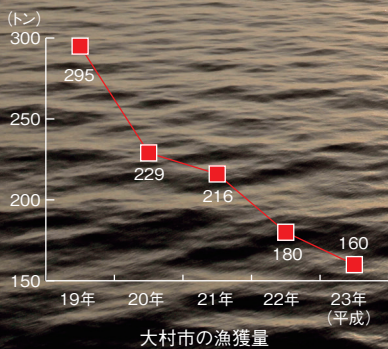
かす や とも ゆき
粕谷 智之さん

大村湾の特徴である「閉鎖性海域」。海水が十分に入れ替わえず、海底に栄養が溜まりやすい状態に陥っています。特に夏場には海底の貧酸素化が拡大し、青潮が発生するといえます。この悪循環を改善しようと、環境保健研究センターでは大村湾の浄化法を研究。現在、湾中央までの海底に延長約7キロメートルのチューブをばわせ、空気を吹き出し、環境修復の効果を検証しています。

また、二枚貝で水質改善を目指す研究も行われています。「大村湾は人間で言うならメタボリックな状態。健康な海に戻るには運動、つまり海から陸へ栄養を回収することが重要です。」と粕谷さん。目を付けたのは、浄化能力に優れているアサリなどの二枚貝。これまでの研究で、アサリの幼生が大村湾周辺の海域に集まりやすいことから、人工の砂場を設置したところ、自然に着底し成長することがわかりました。「アサリは大村湾の栄養を吸収した植物プランクトンをエサに増殖し、そのアサリを採取すれば海から栄養を回収できます。つまり、大村湾のものを食べる『地産地消』が、環境の改善にもつながるのです。これが昔の自然のサイクルです。」豊かな大村湾を目指して、粕谷さんの研究は続きます。

大村湾はメタボリックな状態。海から陸へ栄養を回収できれば「健康な海」に。





朝日とともにナマコ漁に向かう漁船

大村市漁業協同組合長

ふた しま とみ ひろ

二嶋 富寛さん



漁獲量の減少…。深刻な問題と向き合い、
ふるわたの海を守っていかなければなりません。

大村湾には、たくさんの方の海の恵みがあります。「昔はまだ透明度があつた。」というように、昨今は青潮や赤潮の発生などによる海の汚れが、漁獲量の減少に影響を与えていると考えられています。その原因はさまざま。近年の異常気象や山川の開発、家庭からの排水―。漁師として大村湾のいろいろな表情を知る二嶋さんは、「自然は自然のままが一番いい。昔は自然と交わつた水が大村湾へ流れ込み、強い風で湾内の水はかき混ぜられていた。今は生活排水が海に流れ込み、夏は暑く、台風もあまり来ない。それが漁獲量に影響している。」と

懸念しています。
きれいなふるわたの海を取り戻そうと環境保全活動にも力を入れていきます。青潮の原因となるアオサの除去作業や酸素が行き届くように海底を耕すなど、漁協をあげて取り組んできました。「自然をこわすのは簡単だが、元に戻すのは並大抵ではない。宝の海を守らなければ漁師の後継者も出てこない。魅力ある大村湾を次の世代に残すために、ふるわたの海は自分たちの手で保全していかなければなりません。」と二嶋さん。「自然相手だから地道な活動が大切。」と今日も船を走らせます。



02



01



05



04

01.湾中央付近で水質調査を行う長崎大学の研究チーム。02.大村湾を泳ぐスナメリの群れ。03.大村湾ウォッチングで水辺の生き物とのふれあい。04.臼島沖で養殖された大村湾産のカキ。05.運が良いと干潟でカブトガニを見つけることも。06.NHK大河ドラマ「龍馬伝」のロケが行われた寺島。07.伝統的なナマコ漁。08.大村名産のナマコ。09.毎年1～2月に行われるカキまつりは大盛況。ナマコの販売も。10.「県民の森」からの大村の眺望。11.大村湾クルーズ。「大村湾フェスタ」で復活します。12.年に2回大村湾沿岸の一斉清掃を行っています。



03



08



07



09



06

特集 ● みらいにつなごう宝の海、大村湾

大村湾をもっと知ろう!

大村湾を身近に感じるイベントを開催します

長い歳月の間に街の風景が変わっても、変わらずあり続けたふるさとの海。私たちの生活は、大村湾の恵みとともにあると言っても過言ではありません。前頁のお二人は、「大村湾にもっと親しみをもってほしい。」と、そろって口にします。小さいころから海に親しみを持つことで、大村湾の環境に興味を持ち、後継者が育つのだといいます。

湾内でも大村湾に親しめる場所がたくさんあります。環境学習や清掃活動などを行いながら大村湾を身近に感じてもらう取り組みも行っています。また、今年の夏は、大村湾流域の自治体が連携して交流を目指すイベントを大村で開催します。

大村湾の穏やかな環境は、ここならではの水産物を育み、豊かな恵みを与えてくれます。この宝の海を未来につなげていくためにも、一人ひとりが大村湾の環境について理解を深め、守り伝えて行かなければなりません。大村湾は今、「ふるさとの海の未来は、皆さんの思いやりと行動である。」ことを教えてくれているのではないのでしょうか。



大村湾フェスタ

8月17日(日)、午前10時～午後4時
シーハットおおむら ほか

[シーハット感謝デー2014同時開催]

- ・大村湾フェスタ少年少女スポーツ大会(野球・サッカー)
- ・大村湾流域自治体スイーツカフェ
- ・大村湾流域自治体物産展
- ・大村湾クルーズ(午前10時～)

参加者募集(定員:70人 参加費:1,000円)

電話、またはファクス、Eメールに住所・氏名・年齢・電話番号を記入しお申し込みください。

■企画調整課(内線226) FAX(04)0300
✉kikaku@city.omura.lg.jp

大村湾サミット

8月16日(日)、午後2時～
さくらホール

大村湾流域自治体5市5町の広域的な連携と交流を目指し、首長によるサミットを開催。どなたでも参加できますので、ぜひご来場ください。

◎基調講演



澤田秀雄氏
(ハウステンボス(株)
代表取締役社長)

■企画調整課(内線226)

大村湾沿岸一斉清掃

「大村湾をきれいにする会大村支部」では、年に2回大村湾沿岸を清掃しています。さわやかな潮風に吹かれながら、みんなで海岸をきれいにしましょう!

8月31日(日)、午前7時30分～(1時間程度:雨天中止)

- 大村公園南堀前(駐車場集合)～玖島崎沿岸
- 鹿ノ島周辺(松原漁協前集合)～松原海水浴場、松原しおさい公園

■環境保全課(内線143)

